

交通安全だより第7号

I. 7月の安全運転管理について

1. 夏の暑さに打ち勝とう

～体調管理で熱中症を追い払おう～

近年、夏場の気温は非常に高くなり、最高気温が35℃以上の猛暑日となることも少なくありません。暑い夏に注意すべきは熱中症です。熱中症になると立ちくらみや頭痛、吐き気などに襲われる他、重度の場合は意識を失って、そのまま死に至ることもあります。運転中に意識を失うと、正常な運転ができなくなることから、重大な事故に結び付くおそれがあり大変危険です。また、暑さから疲れが溜まりやすい時期でもあります。疲労が蓄積した状態で運転を続けていると、危険を見落したり、居眠り運転したりする危険が増します。次のことを意識しましょう。

- ①こまめな水分、塩分補給
- ②帽子や日傘、エアコンを活用して暑さを避ける
- ③正しい運転姿勢を保つ
- ④こまめに休憩をとる

日常生活でもきちんと睡眠をとる、ストレスを溜め込まない、といったことを心がけ、夏場を乗り切りましょう。



～飲酒運転は絶対にしない～

夏場は仕事終わりに冷たいビールが飲みたくなる季節ですが、飲酒運転は絶対にしないようにしましょう。とくに注意すべきなのが、飲酒した翌日です。深酒になってしまった場合には、翌朝になってもアルコールが体から抜けていないおそれがあります。翌日に運転する予定がある場合は、普段よりも飲酒量を抑えて、酒気残り運転とならないようにしましょう。

2. 車内熱中症を予防しよう

これからの時期は、車内での熱中症のリスクが高まります。次の対策を参考に熱中症を予防しましょう。

対策1 車内の温度を上げない工夫をする

駐車するときは日陰を選ぶなど、直射日光が当たらない場所に駐車したり、サンシェードを使用するなど、車内の温度を上げない工夫をしましょう。



対策2 効果的に車内の温度を下げる

効果的に車内の温度を下げるには、走り始めは窓を開け、エアコンは外気導入で発進する。車内の熱気を出したら、窓を閉め、エアコンを内気循環にして車内を冷やしましょう。

走り始め



窓を開ける



外気導入で走り始める

車内の熱気を出したら



窓を閉める



エアコンを内気循環する

対策3 熱中症警戒アラートをチェックする

熱中症警戒アラートは、熱中症の危険性が極めて高くなると予測された時に、危険な暑さへの注意を促し、熱中症予防行動を取ることを呼びかけるものです。出発前に熱中症警戒アラートをチェックしておきましょう。

出典:環境省熱中症予防情報サイト
<https://www.wbgt.env.go.jp>

出発前に熱中症警戒アラート発出を
チェックしておきましょう。→→



II. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	通勤途中	どこで	片側一車線の一般道
何をしている時に	後続車が無理に追い越してきて自社の左横に見えたとき		
どうなった	対向車線にこちらに向かってくる車が見えたので、左に急ハンドルを切ったら左横の車に衝突しそうになった		

Ⅲ. 今月の事故事例

◆事故の発生状況

令和〇年7月某日 午前9時45分頃 天候：くもり

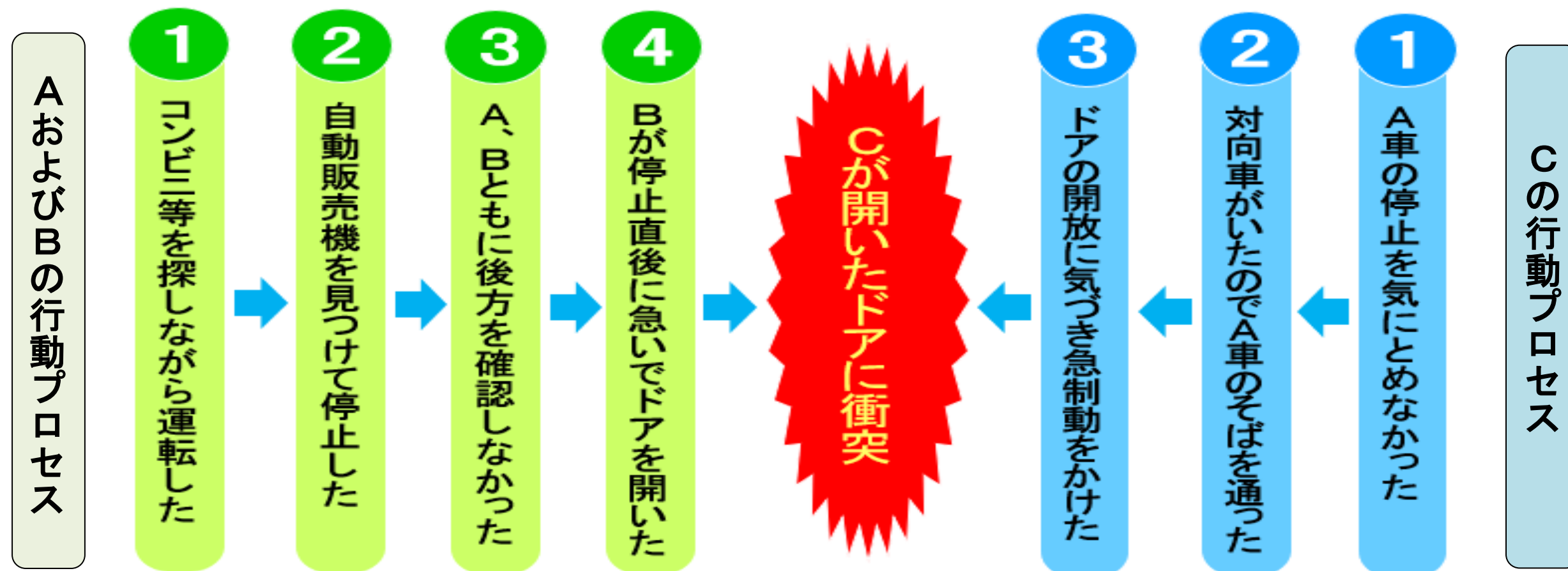
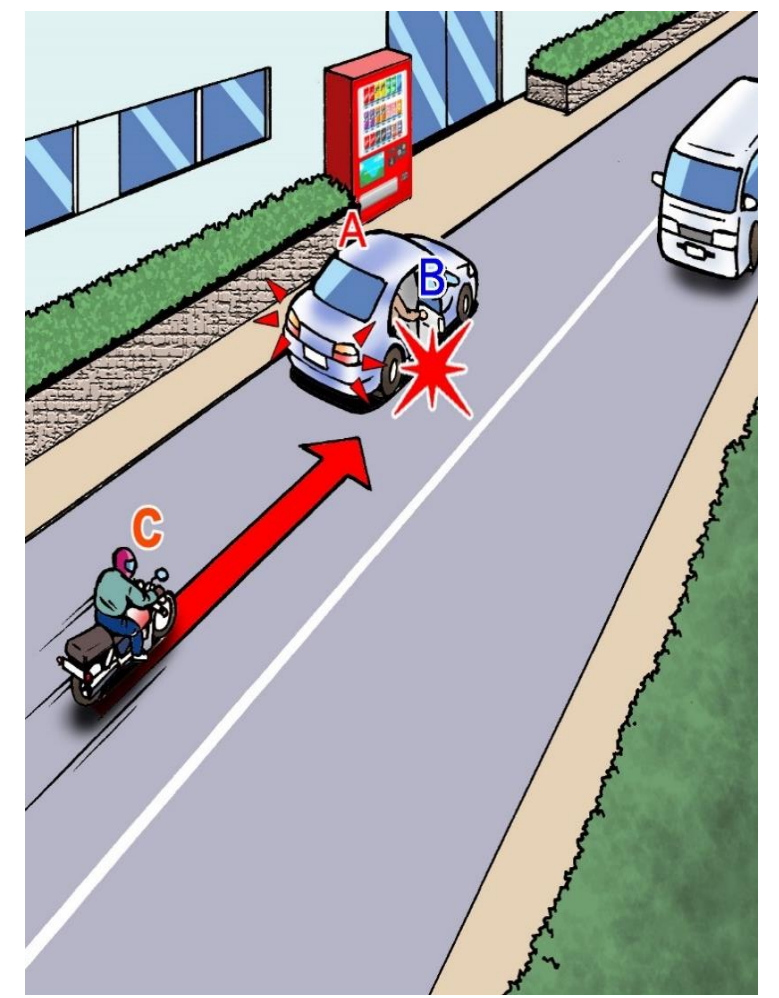
◆事故の当事者

A／男性29歳 普通乗用車運転 B／男性52歳 A車の同乗者

C／男性38歳 自動二輪車運転

◆事故の発生概要

Aさんは食品メーカーで働いている営業マンです。事故が発生した当日は新商品の打ち合わせのため、社有車で上司（B課長）と隣県にある工場に出向くことになり、Aさんが運転し、B課長は後部座席に乗車しました。工場までの片側1車線の国道は比較的空いていて、工場まであと30分ほどの所でB課長が「喉が渴いたから、飲み物が欲しい」と言い出しました。Aさんは、コンビニや自動販売機を探しながら運転し、自動販売機を見つけてスピードを落としました。B課長が「私が買ってくるよ」と、車が停止してすぐに右ドアを開けたとき、後方から自動二輪車に乗ったCさんが走行してきたのです。Cさんは、A車が停止することに気づきましたが特に気に留めませんでした。Cさんは対向車が来ていたためA車のすぐ横を通過しようとしたところ、後部座席のドアが急に開いたのに驚いて、急ブレーキをかけたが、開いたドアに衝突してしまいました。



類似事故を起こさないために運転者の対策は

●ドア開放時の安全確認は運転者の責任

開放したドアに衝突する事故についての責任は停止車両の運転者にある。後方の安全を確認できるまで、ドアを開けないことを同乗者に注意しておく。

●停止した相手の行動の要因(背景)を考える

A車が自動販売機しかない場所に停止したことから、人が降りてくることを予測することができる。対向車が来ているのであれば、対向車が通過後に、停止車両との側方間隔を十分にとって側方を通過する。

ワンポイントアドバイス

ドア開放事故の責任と罰則等

開いたドアに二輪車が衝突する事故の基本の過失割合は、四輪車90%、二輪車10%とされ、これに個別事情(二輪車のスピード、停止車両の二輪車通過直前のドア開放等)が考慮され割合が修正される。

ドア開放によって交通の危険を生じさせた場合は、「安全不確認ドア開放等」で、違反点数1点、反則金6千円(普通車)が科される。さらにドア開放によって事故が発生して死傷者が出た場合は、運転者に過失運転致死傷罪、ドアを開けた人には重過失致死傷罪が問われる可能性がある。



以上